

# 研究収録Ⅱ

平成28年度

文部科学省委託事業

学校法人 科学技術学園  
科学技術学園高等学校

# 「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」

## 目 次

はじめに	1
第1章 事業の内容	2
1. 調査研究課題名	
2. 調査研究のねらい	
3. 期間	
4. 組織・検討会議	
第2章 考察と今後の取り組み	5
(1) 学び直しと学習意欲の回復につながる調査研究	
(2) 特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築	
(3) 特化した支援を要する生徒への学習教材の開発と学習支援の構築	
(4) 全日制において学習の継続が困難な生徒に対する学習支援教材の提供と全通併修についての調査研究	
第3章 スケジュールと会議記録	9
1. スケジュール	
第4章 資料	10
1. 第5回検討会議	
2. 第6回検討会議	
3. 第7回検討会議	
4. 第8回検討会議	
5. 第4回講演 「デンソー学園の取り組み」	44
6. 第5回講演 「アイム湘南美容教育専門学校の取り組み」	48
7. 第6回講演 「起立性調節障害について」	55



## はじめに

文部科学省の「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」に関する調査研究を受託して今年度で2年が経過した。初年度は受託までに時間がかかり、調査研究の時間が短く報告書の提出も遅れてしまった経緯があるが、その調査研究の内容は以下である。

- (1) 学び直しと学習意欲の回復につながる調査研究
- (2) 特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築
- (3) 特化した支援を要する生徒への学習教材の開発と学習支援の構築
- (4) 全日制において学習の継続が困難な生徒に対する学習支援教材の提供と全通併修

初年度はそれぞれのテーマに沿って分科会ごとに調査・研究をし、全体会でそれぞれの進捗状況・中間報告などをおこない、情報の共有化を図ってきた。2年目も同様に各分会での活動をし、全体会での情報の共有化を図ってきたが、この四つのテーマについての共通項のようなものが明確になってきた。勿論すべてを共通に論じるのではないが、(1)「学び直しと学習意欲の回復につながる調査研究」(2)「特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築」(3)「特化した支援を要する生徒への学習教材の開発と学習支援の構築」(4)「全日制において学習の継続が困難な生徒に対する学習支援教材の提供と全通併修」の四つのテーマを通して共通しているのは「自学自習」を柱にした通信制課程の学習教材である。テーマごとに教材の内容に違いはあるが、共通項は学習教材である。

また、特に(2)の「特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築」のテーマにおいて、特に不登校生に対する調査・研究を複数の民間の教育機関と協力して進めたが、その中で私たちが全く想定も想像もしていなかった事例の報告を受け、問題の深さ・問題への対応方法が簡単にできることではないことも痛感させられた。

### 事例

小学校の5年生頃から学校に行かなくなり、中学生になった頃から自分の部屋で昆虫を飼い始め、次には、ネットなどで高価な取引をされている昆虫などを育てるようになった。現在、高等専修学校に在籍はしているが、一年次で登校は年間60日程、2年目は15日程。本人の話では自分の世界は「昆虫と暮らす」ことにあると学校の教員には言っている。

勿論生涯このような生活ができるとは考えていないが、やはり昆虫との生活が第一で、部屋は一年中暖房が効いていて昆虫の臭いに満ちているが母親も「指導」できず放置している。母親と離婚をした父親は時折訪ねてきて、昆虫の話をし、レアな昆虫などを購入する資金をあたえているようである。

通信制高校のスクーリングには出席して、レポートも提出し、単位を修得しているが、専修学校では、個別の指導教員と色々と話をする程度である。

この様な不登校生に対して私たち高等学校の教員がどのようなことができるであろうか。単に教材を渡す、レポートの提出を促すだけでは基本的な解決は全くできない。私たちは不登校生の生徒に対しての対応を調査・研究することが目的であるが、このような生徒を前にした時、問題の深さに対してあまりにも微力なことを痛感させられる。

定時制・通信制課程のみの高等学校として、様々な生徒への教育に当たっている。しかし、上記の様な不登校生への対応が私たちのような通信制とはいえ、通常の「高等学校」で可能かどうかということも考えなければならぬ課題ではある。しかし、そのような生徒も高校生という身分、また高等学校卒業をめざして通信制高校に在学していることも事実である。

調査・研究の2年目を終え、少しずつの前進を確かに手ごたえとして感じている反面、取り組んでいる問題の深さも強く感じさせられている。

## 第1章 事業の内容

### 1. 調査研究課題名

定時制・通信制高校が可能な学習支援の構築についての調査・研究  
＝学び直し学習による学習支援と特別な対象者への学習支援についての調査・研究＝

### 2. 調査研究のねらい

定時制・通信制高校は、勤務に従事するなどの理由で全日制に進めない青少年に対して高校教育を受ける機会を与えることを目的に設置された。しかし、全日制への進学率が高まりその対象となる青少年が激減した状況が続いている。

現状、通信制の多くでは、学習意欲の低下等で全日制・定時制での学習継続が困難になった生徒や一旦高校を退学した生徒ならびに中学校からの不登校生が入学してきている。定時制においては、学習意欲が低下し全日制への進学が叶わなかった生徒の受け皿になっている学校もある。

全日制への進学率が90%を越す現在、企業等の採用条件や進学目的のために「高卒資格」は必然となっている。そして、定時制・通信制は、「高卒資格」だけを求める生徒の行き場となり、一部の学校では本来確保しなければならない高校教育の質の低下が見られるようになった。

そうした現状のなか、学び直し学習の展開と現行の高等学校教育制度では対応が難しい対象者に対する新たな教育課程、教材開発、学習指導ならびに他の教育関係団体との協力体制や制度の問題点等について、定時制・通信制高校が実践可能な学習支援について調査・研究を実施したい。

### 3. 期間

平成28年4月21日～平成29年3月14日

(3か年の2年目)

#### 4. 組織・検討会議

##### (1) 全体会議

No	氏名	所属	役職等
1	杉下俊雄	学校法人 科学技術学園 科学技術学園高等学校	理事長
2	吉田修		校長
3	入江哲也		定時制課程教頭・調査研究総括責任者
4	松田敏博		通信制課程教頭・調査研究総括責任者
5	永田淳義		通信制課程統括分室長
6	白井隆		通信制大阪副分室長
7	田中宗一郎		定時制課程教務主幹
8	豊島正人		定時制課程学年主任
9	吉満博仁		定時制課程学年主任
10	弓場重貴		定時制課程学年主任
11	志水良充		定時制課程総務主任
12	門司新		定時制課程数学科教諭
13	高橋佳菜		定時制課程理科教諭
14	原田育治		定時制課程英語科教諭
15	高橋教充		通信制課程教務主任
16	津島美恵		通信制課程教務主任
17	篠崎雅彦		通信制課程総務主任
18	矢澤謙一		通信制課程名古屋副分室長
19	原田博司		通信制課程大阪教務主任
20	高塚聡		学務部長
21	藤井郁也		戦略室室長
22	種部雅彦		戦略室副室長
23	安部良夫	株式会社デンソー技研センター	工師
24	波多野純	静岡英和学院大学	教授
25	林智幸	静岡英和学院大学	教授
26	井上登志子	神奈川県茅ヶ崎市立円蔵中学校	校長
27	大内雅子	聖母愛児園	臨床心理士

(2) 分科会 (☆印は責任者)

① 第1分科会

学び直しと学習意欲回復につながる調査研究

	入江 哲也	定時制課程教頭
	田中 宗一郎	定時制課程教務主幹
	吉満 博仁	定時制課程学年主任・地歴公民科教諭
	弓場 重貴	定時制課程学年主任・地歴公民科教諭
	志水 良充	定時制課程総務主任・数学科教諭
	門司 新	定時制課程数学科教諭
	豊島 正人	定時制課程学年主任・理科教諭
☆	高橋 佳菜	定時制課程理科教諭
	原田 育治	定時制課程英語科教諭
	藤井 郁也	戦略室室長

② 第2分科会

特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築

	松田 敏博	通信制課程教頭
	白井 隆	通信制大阪副分室長
☆	高橋 教充	通信制課程教務主任
	原田 博司	通信制課程教務主任
	矢澤 謙一	通信制課程名古屋副分室長

③ 第3分科会

特化した支援を要する生徒への学習教材の開発と学習支援の構築

	永田 淳義	通信制課程統括分室長
☆	津島 美恵	通信制課程教務主任
	高塚 聡	学務部長

④ 第4分科会

全日制高校において学習の継続が困難な生徒に対する学習支援教材の提供と全通併修についての調査研究

☆	篠崎 雅彦	通信制課程総務主任
	種部 雅彦	戦略室副室長

## 第2章 考察と今後の取り組み

### (1) 学び直しと学習意欲の回復につながる調査研究

本校定時制課程に入学してくる生徒には入学段階で、小学校・中学校段階での学力が十分についていない生徒が多く見られる。それらの生徒に対して今年度は次の三点での対応をし、観察を試みた。

- ① 個別で活動する本校で実施している「習い事クラブ」を強化する。
- ② 修学旅行・体育祭・文化祭などの行事の準備を可能な範囲で生徒中心として運営させる。
- ③ 従来の評価の方法を検討し、生徒が自ら努力した点を強く感じさせ、努力への気持ちを強くさせる。

①の「習い事クラブ」であるが、陶芸・絵画・英会話、英検受験などの分野において意欲もあり、その分野へのある程度の力のある少数の生徒に対して講師をつけ、活動させた。結果としてこれらの分野に参加した生徒の総数は20名ほどであるが、この分野だけでなく、学校生活全般に対して意欲を増している。

②の学校行事について生徒中心として、企画・立案・進行をさせた。学校全体の行事であり、実行委員会の中心は生徒会となるが、生徒会の役員はこれらの活動を通して意欲を強くし、これらの活動を通して自分自身への自信を深め、自分自身を良い方向に変えることができた卒業式においては涙ながらに訴えていた。

ただ、上記①、②の活動において参加したものは学校での生活に意欲を増し、学習活動にまで良い影響を与えることができるようになったが、学校全体の生徒への意欲喚起には十分なものがあつたとは言えない。同じような例として成績評価を単純な5段階評価ではなく学習への達成度で示したものの、一定の反応はあつたが、それが直接学習意欲への喚起につながることはなかつた。

昨年の報告書で、1年間の学習内容をインストールしたタブレットを新入生全員に渡し、日々の授業で活用した。タブレットの導入と電子黒板の活用は、これまで試みてきた一方通行でない授業の実施には役立つ部分は多かつたが、タブレットそのもので学習への意欲を強く見せた生徒は多勢を占めることはなかつた。勿論、一部の生徒は非常に興味を持って、時間があれば、タブレットを開いていたが、学校全体の意欲喚起という点では決定打とはいえない。

当初の計画には組み込まれなかつたが、本校の学校設定科目である、「総合基礎」においては、全体の学習喚起につながる道筋が見えてきた点があつた。

本校の「総合基礎」という教科は、生徒一人ひとりの、入学時の学習の到達度を調査・試験をして、一人ひとりに合った出発点から学習をさせる教科である。

この時間で一番の要は、担任と生徒との学習内容の相談・到達目標の確認・進捗状況の確認の時間である。クラスの30名ほどの生徒を相手に、この業務に入ると担任は相談相手以外の状況を見ることができなくなる。当然、生徒一人ひとりと学習内容を決め、進捗状況を確認し到達度を話し合うのは担任以外では成果を上げることができない。そこで、個別に担任と相談をしている間に直接生徒の学習の面倒を見る教員を配置し1クラス2人でのペアワークとした。

この指導体制を中心として、一斉での指導、コンピュータを活用した個別の学



習、スモール・ステップでの英単語小テスト・漢字テスト・計算問題テストなどに臨んだ。

この指導でも学力面で下に位置する生徒への効果は十分ではなかったが、入学時学習意欲が低いとみられた生徒に対しては効果がみられた。この一人ひとりの学習計画に基づいての学習活動は学習意欲の回復の面からも効果は高かった。

全体への波及効果は低かった「習い事クラブ」「行事などを通して生徒をリーダーにする」試みを通して共通していることは、生徒を集団として扱うのではなく学校という制度の中で可能な限り「個別」なものとし、「個別指導」的なものを導入することが生徒全体の学習意欲回復につながるものと思う。

今後の調査・研究として「個別」の指導をどう学校全体の中に取り入れることができるかを中心として考えていきたい。

## (2) 特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築

昨年度の報告の通り、不登校の生徒は一人ひとり状況が違うので一括して扱うことはできないが、高校に進学するなどの機会を区切りとして、ごく普通に通学する生徒が多く見られる。これらの生徒に対して通信制高校としては、学習教材の提供、単位認定の基本となるレポートの添削、スクーリングなどをバランスよく配置することで、受講する生徒に細かな目標を与え、高校の卒業を目指して学習に向かわせることができる。

昨年の課題であった「そのような生徒に対して通信制高校ができることはなにか。」について、結論から言えることは、生徒の学力に合った教材の提供が第一である。通信制高校のレポートは同じ科目はすべて同一レベルであるケースが多いが、標準を超えた生徒に対してはより高度の学習教材を与え、できれば自ら調べたり、まとめたものを提出させ、それをレポートとして認定するような制度もインセンティブを与える意味でも効果があると言える。

しかし、次の事例のような場合通信制高校としてできることは限定されてしまう。この報告書の「はじめに」で上げた事例の生徒もいるが、以下のような事例に対して通信制高校ができることはなんだろうか。

**事例** 小学校5年生頃から不登校になったA君は、中学校では通級指導学級に、週に1日程度通っていた。中学校を卒業後は高等専修学校に入学し、週に3日ほどは登校し、個別の指導を受けている。

A君の場合、父親とはほとんど接触がなく、父親も教育をほぼ放棄している状態で、現在の自分の姿を母親のせいだと思い母親を「憎ん」でいる。また、専門学校を中退し家に引きこもっている兄を軽蔑している。学校には上記のとおり週に3日ほど登校し、個別指導の教員と世間話をしたり、自分の思っていることを一方的に話したりしている。心底ではそうは思っていないようだが、「俺は何の価値もない人間」などとよく話している。

個別の教員によると、A君は「思い込み」が強く、非常に狭い世界でしか物事を考えていないようである。また、様々な行事に誘っても効果はないし、参加する様子もない。ただ、個別の教員には心を広げ、通信制のスクーリングへの参加はその教員の言葉であれば素直に従う

ようである。

対応として、登校した時、いろいろと話し、心をお互い広げ、機会を見て、世界には様々なことがあり、A君の思い込んでいるだけが世界ではないと感じさせるのが彼を変える方法のひとつと思われる。カウンセラーなどの配置は承知しているが、カウンセリングなどは受ける気は全くないようである。

このような生徒を相手にした時、通信制高校としてはできることはない。この高等専修学校同様、個別に生徒の相手ができる教員を配置して少しずつ、少しずつ「気心をしり」、少しずつ、すこしずつ、「心をひらか」せてゆくしかないと思われる。ただ、通常の通信制高校でそのような教員を配置することが可能かどうかは学校にもよるが、少なくとも私学においては採算が取れるほど、そのような生徒を入学させ、個別に相手をするのは難しいと思われる。

どのようなシステムを構築した時に、そのような生徒を通信制の高校の教育の中に取り込むことができるかは今後の課題である。

### (3) 特化した支援を要する生徒への学習教材の開発と学習支援体制

今年度のこの分野での調査・研究として、特別な活動を求めて、通信制高校を選択して入学する生徒がいる。スポーツなどで外国留学を選択している生徒もいるが、この範疇の生徒のモデルケースとして新国立劇場バレエ研修所（以下バレエ研修所）の研修生を対象に学習支援を検討してみた。

企業内訓練校の生徒同様に、特別な活動を目指している生徒は、一日のほとんどをそれぞれの目標であることに時間を取られている。今年度対象としてみた、バレエ研修所の生徒は月曜日から金曜日までの終日バレエの実技と、座学で過ごしている。そのような生徒にとっては高等学校の勉強にそう時間を割くことはできない。勢い通信制高校の規定であるレポートの提出、スクーリングへの出席、試験をこなす、単位の修得、卒業資格の修得へ目が行ってしまうが、これは、特別な活動を主としているわけで、責められるべきことではないと思う。それらの生徒に対して、高等学校の学習と自分たちが目指す活動をどうリンクするかが、この学習支援の課題である。

今年度、バレエ研修所の生徒に対して、家庭科で学習する内容で、バレエ研修所で学習する栄養学と重なる部分を家庭科として学習させ、家庭科室での特別なスクーリングも実施した。生徒の反応は非常によく、高等学校の学習と、自分たちが目指す活動との重なりは前向きに取り組めるという意見が多かった。

次年度に向けては本校で学ぶ生徒で、理容・美容、そして調理師系統の生徒に対しても同様に、それぞれの学習と高等学校での学習の重なる部分を特に取り上げテキスト化し、より高等学校の学習に関心を持たせたい。

### (4) 全日制において学習の継続が困難な生徒に対する学習支援教材の提供と全通併修についての調査研究

全日制高校に通う生徒で、不登校などの原因で登校ができなかった生徒は、現状では留年・退学を選ぶしか道がないのが通例である。この現状に対して、通信制と

のタイアップによって防ぐ道はないだろうか、この課題である。しかし、昨年度報告した通り、全日制高校と通信制高校の間にはかなり溝があり、下記の大きな問題がある。

問題の第一の要因は、全日制高校での単位修得と通信制高校における単位修得では、その認識において「落差」がありすぎて全日制高校側からは通信制での単位認定は「容認」できるものではない点である。特に私学の広域通信制に対する疑問や批判が出されている現状もあり「安易」に通信制のシステムで単位認定することには、現場の教師から根強い抵抗があるのが第二の要因である

全日制課程に在学しながら、通信制課程で単位を修得することは可能であるが、現在の通信制での認定制度は、学習量、学習内容から判断して全日制課程の高校では容認できないものである。この課題について、数校の全日制高校との協議を重ねてみた。その中で、『特定の科目等に出席出来ない生徒、学校には登校できるが、すべての授業には参加出来ない生徒に対して、通信制本来の「自学自習」できる教材の提供ができるのではないだろうか。』そのような意見が出された。

通信制には規定により、授業に代わる「学習書」を使うことが決められている。この「学習書」は教科書を自学できるように解説したものが基本である。この「学習書」に準じたもの、そしてそれに基づいた問題集・課題集などを作成し、全日制高校で登校はするが、特定の科目には出席できない生徒への学習支援ができるようになるのではないかと考え、数科目作成し実験的に使用してもらった。単位の認定をどうするかなどの課題はあるが、概ね良好であり、生徒への学習意欲を維持できた。今後も全日制高校での不登校生などが退学に至らない方策について調査・研究をすすめたい。

### 第3章 スケジュールと会議記録

#### 5. スケジュール

「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」は、平成28年4月21日に受託し、平成28年1月まで調査研究した。

##### (1) 会議

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
全体検討会議	○		○			○	
第1分科会	○		○				○
第2分科会	○		○				○
第3分科会	○		○				○
第4分科会	○						○
講演			○			○	○

全体検討会議は3回、各分科会は全体会議の後の分科会のほか、第1分科会は3回、第2分科会3回、第3分科会は3回、第4分科会は2回開催した。第2回目の全体会では「不登校」をテーマにパネルディスカッションを開催した。また、第2分科会の会議は他の民間教育機関との研究協議会として開催した。講演会は3回開催した。

##### (2) 講演

- ① 第1回「デンソー工業学園の取り組み」
- ② 第2回「アイム湘南美容教育専門学校の取り組み」
- ③ 第3回「起立性調節障害について」  
～ 子どもが社会へ出ていくときのつまずき ～

第4章 資料  
全体検討会議

会議名	第5回 多様な学習支援事業に関する検討会議
開催日時	平成28年7月4日(月) 14:00~16:00
場所	科学技術学園高等学校 C棟 会議室
出席者	別紙資料
議題等	<p>1. 平成27年度の活動報告</p> <p>(1) 学習意欲の回復についての調査研究</p> <p>(2) 特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と他の教育団体との協力体制の構築</p> <p>(3) 特化した支援を要する生徒への学習教材の開発と学習支援の構築</p> <p>(4) 全日制において学習の継続が困難な生徒に対する学習支援教材の提供と全通併修についての調査研究</p> <p>(1) 定時制 入江教頭 (2) (3) (4) 通信制 松田教頭</p> <p>2. 平成28年度の活動計画</p> <p>(1) 定時制 入江教頭 (2) (3) (4) 通信制 松田教頭</p> <p>3. 第1分科会の報告</p> <p>(1) 学習意欲の回復 豊島主任、吉満主任、原田教諭</p> <p>4. 分科会</p>



## 学習意欲の回復について

### 1. 平成27年度 活動報告

科学技術学園高等学校 第1分科会

### 1. 平成27年度 活動報告(1)

H27 8.5

定時制課程について一定時制課程の生徒像—  
※「研究収録Ⅰ」p.12～p.15参照

- ①生徒募集活動における5つの柱
- ②学習に関する意識調査(1年生)
- ③入学生の学力
- ④本校生徒のタイプ分け

### 1. 平成27年度 活動報告(2)

H27 11.9

「学習に対する意欲を回復」させるための  
取り組み

※「研究収録Ⅰ」p.22～p.23参照

- ①教材・教具の工夫 —タブレット端末—
- ②学校内活動の再確認(4分野11項目)

### 1. 平成27年度 活動報告(3)

H27 12.18

研究授業

※「研究収録Ⅰ」p.28～p.33参照

- ①タブレットと電子黒板を組み合わせた、  
数名のグループ学習による双方向授業  
の実践(数学科)
- ②生徒の興味・関心を高める授業の工夫  
(理科)

### 1. 平成27年度 活動報告(4)

H28 2.26

学習意欲の回復に向けて

※「研究収録Ⅰ」p.39～p.43参照

- ①少人数または個別での学習活動及び  
課外活動の実践
- ②次年度実施項目とその課題・問題点

## 学習意欲の回復について

### 2. 平成28年度 活動計画

## 2. 平成28年度 活動計画(1)

学校生活全般を通して生徒に意欲を持たせるための項目の実践及び検討

### ①「習い事クラブ」

少人数指導で特化した能力を育てる習い事クラブを増やし、活性化させる。

→現在検討中(CGなど)



## 2. 平成28年度 活動計画(2)

### ②「学校行事」

体育祭、文化祭、修学旅行などの行事を準備段階から生徒グループにコミットさせ、自分たちの行事だという意識を強めていく。

→行事ごとに担当を決めて、現在進行中



## 2. 平成28年度 活動計画(3)

### ③評価

「やる気」を起こさせる評価方法、学習の成果や結果の伝え方について研究する。前提として、定期試験のあり方、評価の仕方や成績の付け方等についても、併せて検討する。

→第1分科会・教務部にて現在検討中

## 2. 平成28年度 活動計画(4)

### ④授業でのグループ学習

各教科において、授業内で5～6名のグループによるグループ学習を行う。

授業にはアシスタント教員を用い、きめ細かい指導を行う。

→「総合基礎A」(数学的・英語的・CAT)  
アシスタント教員を導入

最後に

### ■平成28年度活動計画

※現在進行・検討中

→実践していく中で、  
より柔軟に幅広く対応する。





## 特別に支援を要する生徒への学習教材の開発と 他の教育団体との協力体制について

- 1.平成27年度 活動報告
- 2.平成28年度 活動計画

科学技術学園高等学校

## 平成27年度 活動報告(1)

H. 27. 8. 5.

学ぶ意欲や機会を喪失している生徒について  
※研究収録 I p. 16～p. 17

- ①調査対象生徒（不登校状況の生徒）の分析
- ②本校と協力関係にある他の教育施設団体
- ③本校と協力関係にある他の教育施設団体の現状報告

## 平成27年度 活動報告(2)

H. 27. 12. 18.

学ぶ意欲や機会を喪失している生徒について  
※研究収録 I p. 34～p. 38

- ①協力関係のある教育施設における研究協議会報告
  - (1) 不登校と学力不振に対する取り組み（長岡凜晴学院）
  - (2) 総合実習について（湘南文理高等学院）
  - (3) 生きた職場を創造する（静進情報高等専修学校）
  - (4) 通信制高校として何ができるのか
- ②不登校生に対する学習支援の学習会

## 平成28年度 活動計画

学ぶ意欲や機会を喪失している生徒について

- ①学ぶ意欲や機会を喪失している生徒の研究
- ②上記のような生徒に対しての学習教材の研究・開発



## 全日制において学習の継続が困難な生徒に対する 学習支援教材の提供と全通併修についての調査研究

- 1.平成27年度 活動報告
- 2.平成28年度 活動計画

科学技術学園高等学校

## 1.平成27年度活動報告(1)

H27.8.5.

### 全通併修について

※「研究収録Ⅰ」p.20参照

- ①全通併修の法的根拠
- ②他校での全通併修の実施例
- ③本校での全通併修の実施状況

## 1.平成27年度活動報告(2)

H27.11.9.

### 全通併修制度を活用する生徒への対応例

※「研究収録Ⅰ」p.24～26参照

- ①実施校に対して本校ができる学習支援の検討
- ②学校へ登校できるが教室へ入れない生徒への対応例
- ③学校へ登校できない生徒への対応例
- ④高校入学以前の学習に不安を持っている生徒への対応例
- ⑤新たな可能性の模索

## 1.平成27年度活動報告(3)

H28.2.26.

### 全通併修制度の推進について

※「研究収録Ⅰ」p.45～46参照

- ①全通併修制度の実情
- ②本校定時制課程での実践(定通併修)
- ③全通併修の実施例
- ④全通併修制度の問題点
- ⑤今後の研究課題

## 2.平成28年度活動計画

### 全通併修制度の推進について

- ①全通併修制度のニーズ
- ②併修を利用する生徒の研究
- ③併修を利用する生徒への学習教材の開発

## 特化した支援を要する生徒への 学習教材の開発と学習支援の構築

- 1.平成27年度 活動報告
- 2.平成28年度 活動計画

科学技術学園高等学校

## 1.平成27年度活動報告(1)

H27. 8. 5.

### 特別な生徒について

※「研究集録Ⅰ」p. 18～19参照

- ①社会における現状
- ②本校における新国立劇場バレエ研修所生
- ③各種学校に入学する生徒
- ④生徒が目指す将来

## 1.平成27年度活動報告(2)

H27. 11. 9.

### 特別な生徒について

※「研究集録Ⅰ」p. 25参照

- ①どのような学習支援ができるのか
- ②学校外の学修を推進するための協力
- ③精神的な支えとなる場を (HR・特別活動など)

## 1.平成27年度活動報告(3)

H28. 2. 26.

### 特別な生徒について

※「研究集録Ⅰ」p. 25参照

- ①社会における現状
- ②本校生徒の調査
- ③学習支援の検討
- ④普通科目に対する学習姿勢の改善

## 2.平成28年度活動計画

### 特別な生徒について

※「研究集録Ⅰ」p. 25参照

- ①栄養学の開講 (管理栄養士の方との協力)
- ②学習教材の提供・本校施設の利用
- ③本校との協力体制の模索

多様な学習支援を推進する検討会議  
学習意欲の回復のための評価について

本校の生徒の傾向に合わせた学習内容・評価を実施してきたが、本研究を進めるに当たり、学習評価の方法が、生徒の意欲を向上・低下させる要因の一つとしてとらえ、「より意欲的になる評価方法」がいかなるものかを考え、第1分科会で検討を重ねた。

### I 昨年度までの評価方法とその通知

#### ■ 現行の単位認定基準

##### 試験

- (1) 定期試験(中間・期末)を学期ごとに行う。中間・期末試験は原則として同じ比重とする。
- (2) 試験問題は、平均点になるべく60%から70%になるように作成する。
- (3) 定期試験を受験しなかった生徒は、正当な理由がある場合は追試験を受けることができる。
- (4) 実技を伴う科目は、実技試験を基本とする。

##### 評定

- (1) 評点は定期・実技試験をもとにし、小試験、課題の提出、日常の学習態度、出欠等を総合評価して決定する。この場合、定期試験の比重は全体の70%とする。
- (2) 評価・評定は次の区分による。

評価	評定
100 ~ 85	5
70 ~ 84	4
50 ~ 69	3
35 ~ 49	2
0 ~ 34	1

※この表は、科目の平均を60~70点とした場合である。

#### ■ 通知方法

- ① 前期・後期に1回ずつ上記の単位認定基準をもとに前期成績(評定)、学年末成績(評定)を算出し通知している。
- ② 1学年前期中間試験の結果については、基礎問題の理解度(正答率)、発展問題の理解度(正答率)を通知している。

## II 本年度の評価方法とその通知

### ■ 本校における評価の工夫について

本校では、評価として筆記試験を70%、平常点を30%と設定し、それぞれに工夫を加え評価をしている。

#### □ 試験方法とその評価

##### (1) 定期試験の評価の工夫

年4回行われる定期試験問題を基礎・標準・発展に分類し、各分野の正答率を割り出して分析をしている。

① 基礎問題の正答率(素点) → 理解度(%)で評価

② 発展問題の正答率(素点) → 理解度(%)で評価

##### (2) 平常点の評価の工夫

全体の30%の評価を平常点とし、以下の項目で評価を行っている。

① Kテキスト(本校独自の試験対策用テキスト)の取り組みの評価

② Kノート(本校の授業展開に合わせたノート)の評価をA～Dで判定

③ まとめ・レポートの評価(担当が話していた内容のポイントをしっかりとらえ、レポートに反映できているかを評価)

④ 小テストの評価(自宅学習の成果を確認する定期的な小テスト)

→ 限られた狭い範囲、取り組みやすい自宅学習課題による授業内試験を実施

#### □ 評価の活用・通知形式

年間の定期試験後に3回の通知を実施している

##### (1) 前期・後期中間試験後の結果通知

中間試験の基礎問題の正答率を授業の理解度とし、表にまとめ提示している。

また、教科内で分析し、三者面談(7月・12月)などの資料(「マイデータファイル」(資料1)参照)として活用している。

##### (2) 前期成績表(資料2参照)

5段階表記だけでは、1段階分で示す成績の幅が広いため、「数字だけで不親切」「生徒によっては意欲を失いかねない」との委員からの意見を基に、以下に示すように評価項目を増やし、さらに通知方法を変更した。

① 5段階の評定は表示せず、学習到達度(%)で表す。

② 提出物・出席の状況を星の数で表記する。

③ 「漢字書き取り」・「英単語」・「計算」の検定試験の結果と目標値の提示する

(本校では、平成 17 年から「書取り散歩」・「計散歩」・「英単語散歩」と名付け、ドリル形式で学習を進め、定期的に検定試験を行っている。1級に合格した場合は、修了式等で表彰している。)

### (3) 学年末成績表

- ① 単位認定基準に基づき5段階評定を出す。
- ② 単に5段階評定を通知するだけでなく、1年間の学習の経緯がわかるように、前期の学習到達度の比較を提示する。

## III 今後の課題について

### ■ 観点別評価の導入

一般的に小中高と上級学校に進むほど、観点別評価に対する取組の意識が薄れてしまいがちであるが、本分科会でも「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」などの「新学習指導要領を踏まえた観点」については、各教科において「評価を出しにくい」という意見が挙がった。しかし、現在本校で実施している1年生の「コミュニケーション※1」、2年生の「プレゼンテーション※2」は、観点別での評価がしやすく、また、2年から始まる「総合選択コース制」の科目は専門性が高く、レポートや発表などで評価される機会が多い。そのため、今後、観点別の評価基準を明確にし、それらの基準を授業実践で伝え、生徒が自ら授業に参加し評価を向上させていこうという姿勢につながると考えられる。

※1 「コミュニケーション」(1単位) コミュニケーションについての基礎知識、実習を行っている。

※2 「プレゼンテーション」(1単位) プレゼンテーションについての基礎知識、実習を行っている。年度末にはプレゼンテーションの実践の場を設けている。



#### IV 補足資料 高等学校における学習評価について(文部科学省)

##### 学習評価の意義・目的

- 生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有する
- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要〔指導と評価の一体化〕
- 新学習指導要領においてもきめの細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価を引き続き実施

##### 生徒指導要録における学習評価(主なポイント)

###### 各教科・科目の評定

- 高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総合的に評価(5～1の5段階)
- 評定に当たっては、観点による評価(「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」)を十分踏まえる
  - ※ 高等学校の指導要録の参考様式には、観点別学習状況の記載欄を設けていない(生徒の特性、進路等に応じて多様な教育課程が編成されていることや、高等学校の指導要録の現状を考慮して、大枠のみを示している)
  - ※ 都道府県教育委員会等において、指導要録に観点別学習状況を記載できるようにすることも有効な手段

##### 総合所見及び指導上参考となる諸事項

- 生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で記述
  - ① 各教科・科目や総合的な学習の時間の学習に関する所見
  - ② 行動に関する所見
  - ③ 進路指導に関する事項
  - ④ 取得資格
  - ⑤ 生徒が就職している場合の事業所
  - ⑥ 生徒の特徴・特技、部活動、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕、体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査に関する記録など

⑦ 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

(参考) 観点による評価

- 通知に示した各教科の評価の観点及びその趣旨を十分踏まえながら、それぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方を工夫
- 単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において、「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価
- 学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択



新学習指導要領を踏まえた観点の設定で評価

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

新しい観点 … 「関心・意欲・態度」 「思考・判断・表現」 「技能」 「知識・理解」

「関心・意欲・態度」 … 各教科・科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価

「思考・判断・表現」 … それぞれの教科・科目の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価

「技能」 … 各教科・科目において習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価

「知識・理解」 … 各教科・科目において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が身に付けているかどうかを評価

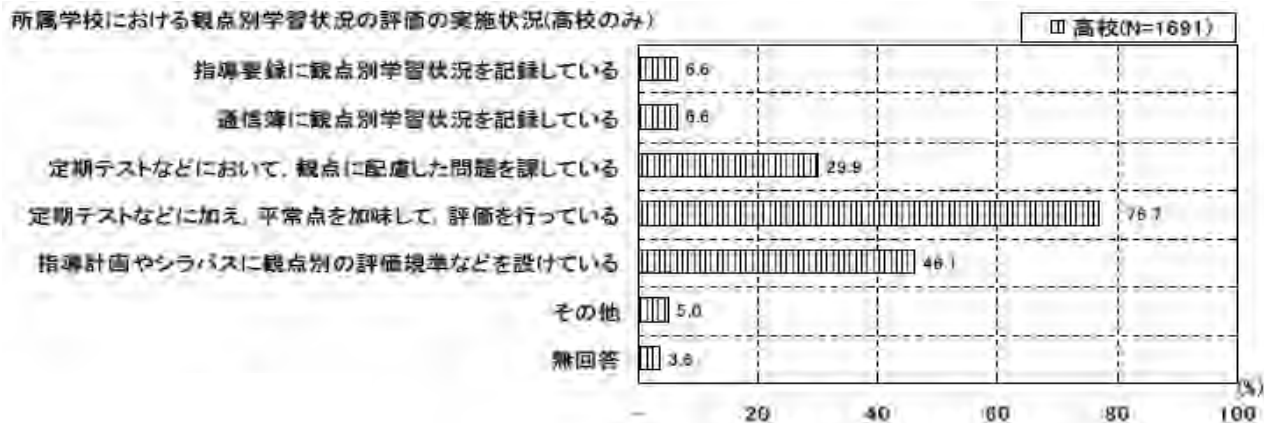
※ 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

学力の3つの要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能 → 「技能」及び「知識・理解」で評価課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 → 「思考・判断・表現」で評価

主体的に学習に取り組む態度 → 「関心・意欲・態度」で評価

所属学校における観点別学習状況の評価の実施状況(高校のみ)





資料1  
平成28年度 学習履歴票 (4月・9月・3月に実施)

1年	組	番	氏名
----	---	---	----

■基礎学力試験 (4月・9月・3月に実施)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
【学習項目1】	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	
第1回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第2回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第3回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

■基礎学力試験 (4月・9月・3月に実施)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
【学習項目1】	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)
第1回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第2回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第3回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

■基礎学力試験 (4月・9月・3月に実施)

No	1	2	3	4	5	6	7
【学習項目1】	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)	基礎学力試験 (数学)	基礎学力試験 (英語)	基礎学力試験 (国語)
第1回	○	○	○	○	○	○	○
第2回	○	○	○	○	○	○	○
第3回	○	○	○	○	○	○	○

■学習履歴票 (成績)

国際	歴史	数I	科人	体育	芸術	音楽	道徳	ICT	社会
4	5	4	5	4	4	3	4	4	4

■学習履歴票 (成績)

国際	歴史	数I	科人	体育	芸術	音楽	道徳	ICT	社会
4	5	4	5	4	4	3	4	4	4



■女子のG12

進歩の目安	目標の目安
A 4年時～10年時までの成長 B 4年時～10年時までの成長 C 4年時～10年時までの成長 D1 4年時～10年時までの成長 D2 4年時～10年時までの成長 D3 4年時～10年時までの成長	4年時～10年時までの成長 4年時～10年時までの成長 4年時～10年時までの成長 4年時～10年時までの成長 4年時～10年時までの成長 4年時～10年時までの成長

■基礎学力診断テスト (年4回実施)

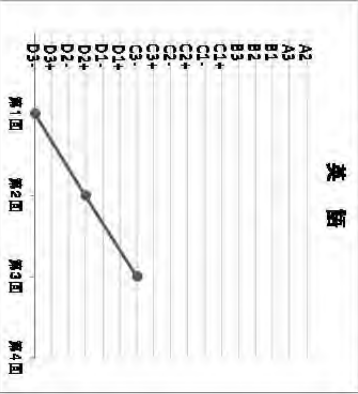
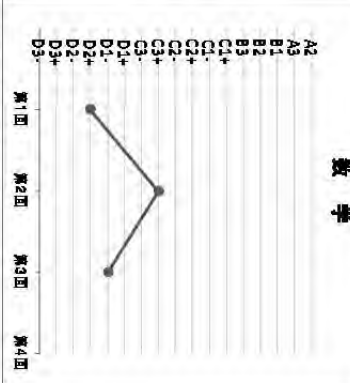
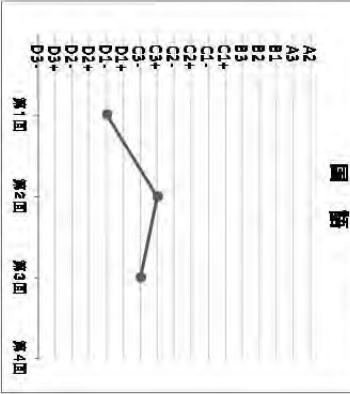
教科	国語	数学	英語
得点	D1-	D2+	D3-

教科	国語	数学	英語
得点	C3+	C3+	D2+

■基礎学力診断テスト (年4回実施)

教科	国語	数学	英語
得点	C3-	D1-	C3-

教科	国語	数学	英語
得点			



■進歩の目安、各種検定

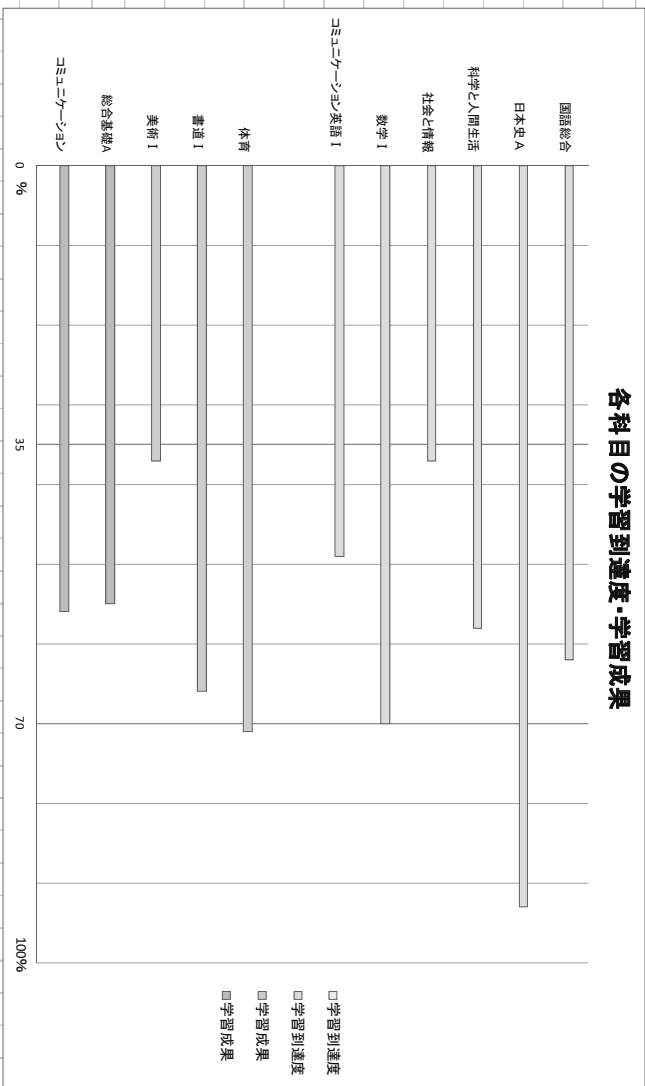
進歩の目安	各種検定
書き取り検定	7-10
計算検定	割合算
英単語検定	23級B
漢字検定	4
英語検定	3
ワーワード検定	級

# 平成 28 年度 前期 学習 結果 連絡 票

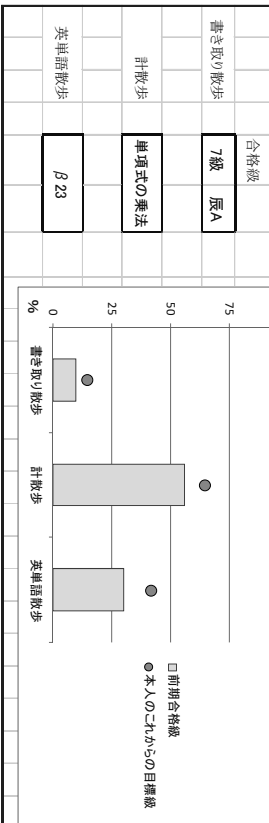
1 年 1 組 1 番      科技 太郎

## 各科目の学習到達度・学習成果

（必修科目）		提出物状況 (※PTはB・C・D)	出席状況
教科	科目	学習クラス	
国語	国語総合		☆☆☆☆
地理	日本史A		☆☆☆☆
理科	科学と人間生活		☆☆☆☆
情報	社会と情報		☆☆☆☆
数学	数学 I	B	☆☆☆☆
英語	コミュニケーション英語 I	S	☆☆☆☆
保健体育	体育		☆☆☆☆
芸術	普通 I		☆☆☆☆
	美術 I		☆☆☆☆
総合	総合基礎A		☆☆☆☆
	コミュニケーション		☆☆☆☆



(散歩シリーズの進捗状況)



(出欠勝)

授業日数	思引・出席	出席率	欠席	遅刻	早退	備考
91	0	91	0	12	0	

※日数にはPTの出席数は、9月30日までのものを示す

部活動	部活出席率	委員会・係
野球	100%	放送

担任: 高橋 佳菜

(印)

多様な学習支援を推進する検討会議  
「行事の在り方について一生徒の主体性を大切にした体育祭」

1. 学校行事の見直しについて

学校行事の核となる三大大行事は文化祭、体育祭、修学旅行である。これらの行事は文化祭なら生活指導部、体育祭なら体育科、修学旅行なら教務部が主導して計画、実施するのが一般的である。本校でも同様に各分掌、教科が行事を主導する中で、本校独自の行事の形が出来上がっていた。

しかし、「独自の形」といっても放っておけば、内容は次第にマンネリ化していく。また、教師の姿勢が「形」ありきとなり、いつの間にか生徒の活動をその形に乗せておけばよしと考え始め、生徒の主体性を知らず知らずのうちに奪っていきかねない。

こうしたことを踏まえ、学習意欲の回復を図るべく今年度より新しい発想を持って、あくまでも生徒主体、生徒が積極性を持って取り組める行事を構築するために、各行事の実行委員会は従来の校務分掌、教科の枠にとらわれない形で構成されることになった。その新たな実行委員会の取り組みの例として体育祭を取り上げ、実践報告の課程を報告する。

2. 体育祭を俯瞰してみても

これまでの体育祭を俯瞰してみると、計画から準備、当日の進行まで、ほぼ全ての過程を教師が担っていたように思う。生徒は一つ二つの競技に参加するのみで、あとは何となく競技場において、何となく係の仕事をこなし、何となく応援をしているという状態であった。

今年度の体育祭はこれまで教師が担っていた役割の一部を生徒の手にゆだねることで、生徒が自分の役割を意識し、責任を持って主体的に関わっていけるものにしていくためには、どのような方策が考えられるか検討した。

3. 生徒の主体性を大切にした活動の具体案と進捗状況

(1) クラス委員の積極登用

生活指導部のリーダー育成計画として立ち上げたクラス委員会と生徒会とを連動させ、生徒が生徒を動かしていく環境を作る。具体的にはこれまで教師が行ってきた「整列」の係を担当させる。 進捗状況○

(2) クラスオリジナルTシャツの作製

全18クラス別々のカラーのTシャツを作製し、それを着させることで生徒が集団(クラス)への帰属意識を持つようにする。また、集団の代表として競技をしている、逆に代表を応援しているなど、自分が何らかの役割を果たしているという気分にさせる。

Tシャツのバックプリントは生徒の作品を使用する。スポットの当たる生徒がたとえ一人であっても、こうした機会を大切にする。 進捗状況○



(3) ダンスパフォーマンス

これまでは教師が生徒の中からメンバーを選び、教師が振り覚えて生徒に教え込んでいた。今回はやる気さえあれば運動の得意、不得意関係なくプロジェクトに参加させた。また、各自ユーチューブ等でダンスの振り付けを予習した上で練習に臨ませるようにした。さらに、振り付けの一部は学年ごとに話し合いで決めさせるようにした。 進捗状況○



(4) 部活動リーダーの積極登用

生活指導部が毎年度末に行っていたリーダー研修会を発展させた形として、部活動リーダー会議を立ち上げた。このリーダー会議では部活ごとに主に「元気」「活力」をテーマに、いかにして部活動を活性化させるかという問題に取り組んでいる。体育祭では開会式の核になる校歌斉唱の場面で力を発揮させることを試みた。 進捗状況△

(5) 生徒による新種目の考案

クラス委員会にて新種目のリクエスト調査を各クラスで行うよう指示を出した。翌日には各クラス委員が調査結果を報告してきたが、「棒引き」「大縄跳び」「全員リレー」程度であった。ただし、新種目として「騎馬戦」が提案された。 進捗状況△



(6) パンフレット、ポスター、招待状の作成

パンフレットの表紙の図柄の公募、データ入力作業、製本などに生徒を参加させた。また、保護者向けの招待状（入場券）を作製し、そこに「ドリンク1本無料」などの付加価値をつけてみたいとの提案があった。 進捗状況×

#### 4. 今後に向けて

行事の見直し、生徒の主体性を大切にした行事作りを、PDCA のサイクルに乗せてみると、おおよそ以下のようになる。

学校生活全般に応用可能なプランを考案する。(Plan)

実際に生徒にやらせてみる。(Do)

公正に評価、検証する。(Check)

改善点を踏まえ使えるノウハウを蓄積する。(Action)

この4過程はどれも大切なものだが、まずは「Do」の部分を強調した形でサイクルを繰り返すことが大切と考える。その先に、生徒の主体性を大切にした、また生徒の主体性を育てる行事が完成していくと思われる。

5. その他 今年度の体育祭は6月24日(金)に予定されていたが、雨天のため、10月6日(木)に順延となっている。



多様な学習支援を推進する検討会議  
「行事の在り方について一生徒の主体性を大切にしたい体育祭」(実施報告)

平成28年度の体育祭(10/6実施)について、以下に報告をする。

1. 生徒アンケート結果

質問内容

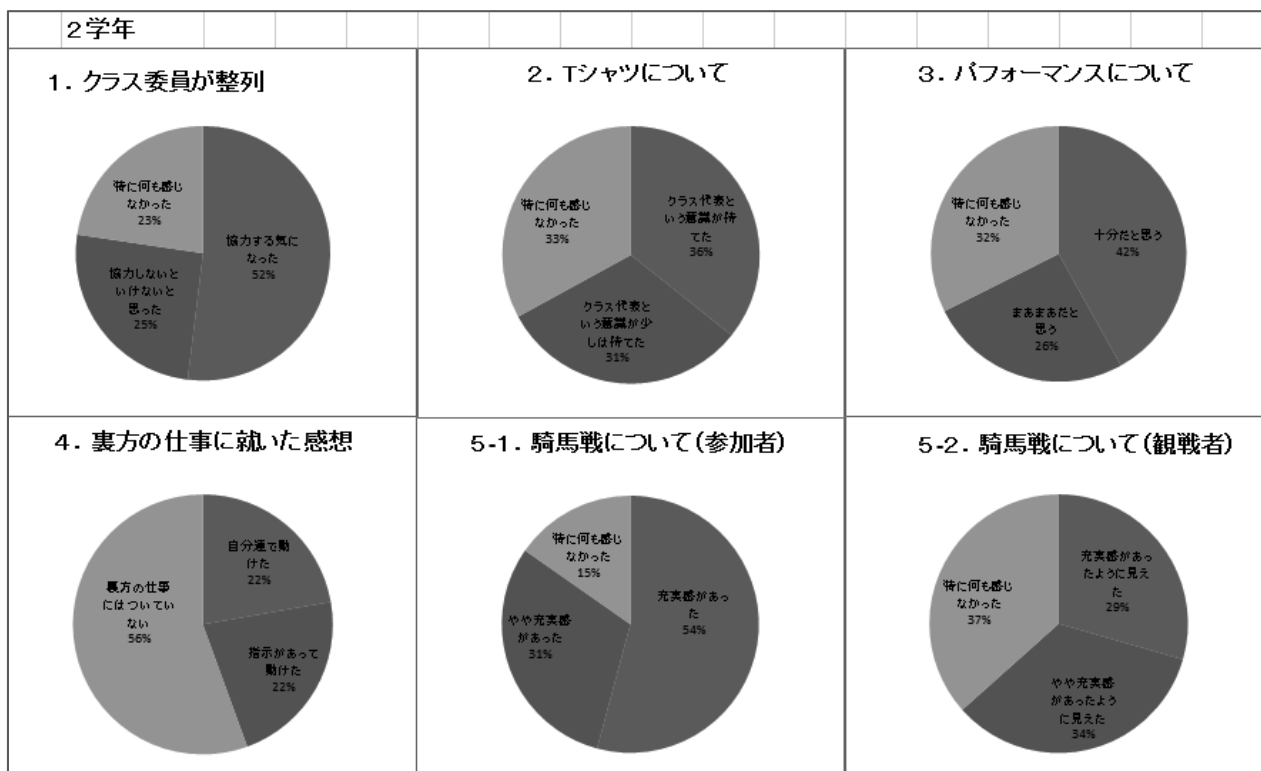
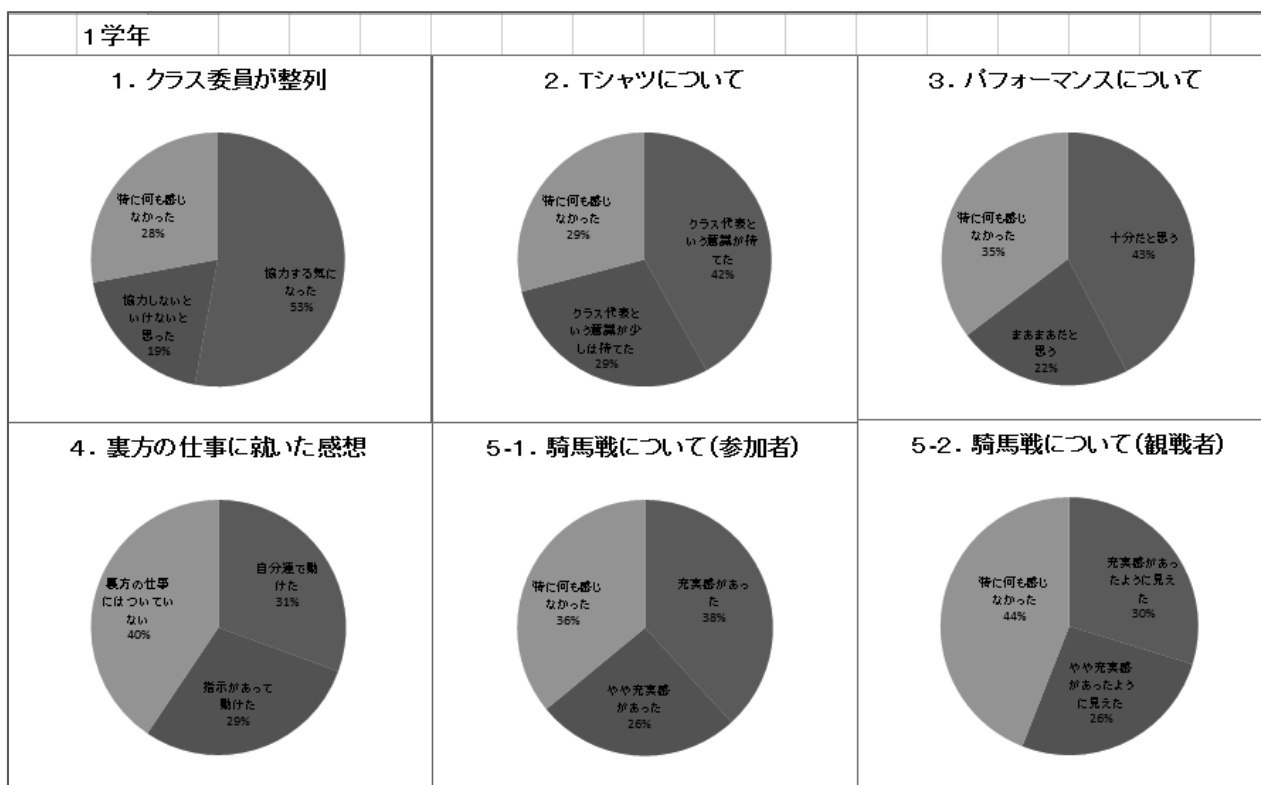
1. 開閉会式で先生の代わりにクラス委員の代表が「整列」を担当しましたが、それについてどう思いましたか。近いものに○を付けて下さい。
  - ①仲間が代表として頑張っているので協力する気になった。
  - ②仲間が代表として頑張っているので少しは協力しないといけないと思った。
  - ③特に何も感じなかった。
2. 今回、クラス別Tシャツを作成しましたが、それについてどう思いましたか。近いものに○を付けて下さい。
  - ①クラスの代表として協議に参加しているという意識になった。
  - ②クラスの代表として協議に参加しているという意識に少しはなった。
  - ③特に何も感じなかった。
3. 今回のダンスパフォーマンスは、メンバーが自分達で話し合い、仕上げていきましたが、それについてどう思いますか。近いものに○を付けて下さい。
  - ①自分達であそこまでできれば十分だと思う。
  - ②自分達であそこまでできればまあまあだと思う。
  - ③特に何も感じなかった。
4. 部活動や委員会で召集誘導や得点係など裏方の仕事についてみて、自分自身の感想として近いものに○を付けて下さい。
  - ①部活や委員会で、自分たちで判断して積極的に取り組めた。
  - ②部活や委員会で、先生の指示のもとで積極的に取り組めた。
  - ③特に裏方の仕事にはついていない。
5. 今回は男子校らしい競技として「騎馬戦」を導入しました。その感想として近いものに○を付けて下さい。

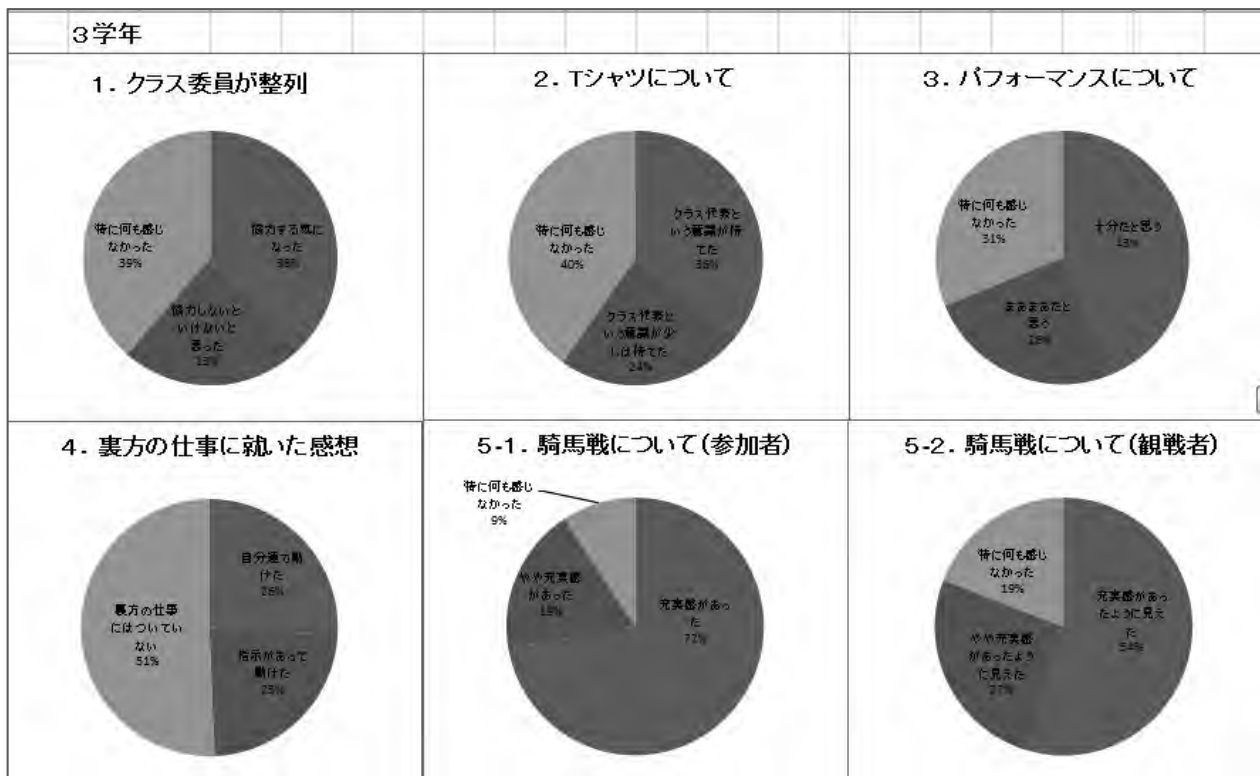
【参加した人】

  - ①他の競技よりも充実感があつた。
  - ②他の競技よりもやや充実感があつた。
  - ③特に何も感じなかった。

【観戦した人】

  - ①他の競技よりも充実感があるように見えた。
  - ②他の競技よりもやや充実感があるように見えた。
  - ③特に何も感じなかった。





### 1. 分析

- 質問に対する回答の①②のパーセンテージが高ければ、効果があったということになる。そうした意味では「効果あり」と評価したいところである。しかし、回答②は「やや」「まあまあ」「少しは」という表現を含む、いわば玉虫色の回答ともとれるので、回答①の比率が上がっていくよう、今後も改善を進めていきたい。
- 新種目「騎馬戦」に対して、1年生よりも2、3年生が高い評価をしている（参加者）。これは、2、3年生がこれまでの体育祭種目に満足していなかったということ、男子校らしい「力」を前面に出す種目の楽しさに気が付いたことを意味するのではないかと。

### 2. 来年度へむけて

教師に対してのアンケートは、体育祭のみならず、広く「行事」という視点をもって質問の回答をお願いした。

#### 【質問】

- 開会式について。全体的にキビキビ感に乏しく、まだまだ、やらされている感が残っていると感じました。この点を改善するために、平素の活動（HR、授業、部活動）も含め、どのような工夫が考えられますか。
- クラス委員の積極登用について。開閉会式でクラス委員の代表が「整列」を担当しました。今後さらにクラス委員をリーダーとして登用する場合、どのような登用の仕方が考えられますか。
- クラス別 T シャツについて。今回、生徒のクラスへの帰属意識を高めさせるためにクラス別 T シャツを作製しました。今後もこうした試みを続けていくとした場合、さらに効果を上げるためにはどのような工夫が考えられますか。
- ダンスパフォーマンスについて。今回のダンスパフォーマンスは、教師が教え込む形



をとらず、生徒が自分たちで話し合い、仕上げていく過程を大切にしました。今後さらに見る側にもやる側にもより高い充実感を与えるには、どのような工夫が考えられますか。

5. 部活動リーダーの積極登用について。今年度は毎年度末に行っていた部活動リーダー研修会を解消し、部活動部長会議として定期的に会合を開くようにしましたが、まだまだ「部長らしい」生徒が育っているようには見えません。体育祭では招集誘導など裏方の動きが大切で、実際多くの生徒が真面目に役割を果たしているものの、依然として部長ではなく教師の指示が先行しているように思います。この点を改善するために、どのような工夫が考えられますか。
6. 生徒による新種目の考案について。全生徒より新種目についてのアンケートを取った結果から、今回は男子校らしい勇壮感を持ちつつ安全性にも配慮した「騎馬戦」を導入しました。今後もこの種目を継続し、盛り上げていくとした場合、どのような工夫が考えられますか。

#### 【回答】

各質問に対し、多くの先生方から建設的な意見が多数寄せられた。「生徒主体の体育祭」を構築していく上で、まだまだ十分に改善の余地があることがわかり、詳細を次期担当に確実に引き継いで、次の成果へとつなげていきたい。

#### 参考

##### 【理事長より3つの助言】

- (1) 生徒と教師との関係は「呼吸」をあわせることが大切。例えば綱引き。教師が傍観者となっているようではいけない。
- (2) 生徒のアナウンスの指導を強化すべきである。開閉会式は台本があり、生徒の話し方も悪くなかったため、伝えたい内容が明確に相手に届いていた。しかし、残念ながら競技開始後のアナウンス（実況）は粗雑感が強く、何を言っているのか、何を伝えたいのかが不明瞭になってしまっていた。
- (3) 生徒会旗を作製してはどうか。国旗、校旗、生徒会旗と3つそろって掲揚されると見た目のバランスが良い。

多様な学習支援を推進する検討会議  
総合基礎 A の取り組みについて

- I 概要 総合基礎 A (5 単位) は、本校独自の学校設定科目である。  
内訳は総合基礎 CAT (1)、総合基礎 HR (1)、総合基礎数学 (2)、総合基礎英語 (1)  
※ ( ) 内は週当たりの時数

II 総合基礎 CAT および総合基礎 HR について

- (1) 指導内容 (CAT は Computerized Adapted Testing コンピュータ適応型テストの略称)

総合基礎 CAT では、27 年度まで学校向けクラウド型 e ラーニング教材 CAT を使い、英検合格を目指した学習を行っていたが、28 年度からは英語以外の科目の学習も可とし、より生徒が主体的に学びたいものが学べるよう環境整備を行った。

現在、コンピュータールームでコンピュータを用いて CAT あるいは振り返り学習を行う時間を総合基礎 CAT として 1 時間 (プリント教材の学習も可)、またホームルーム教室でプリント教材を学習する 1 時間を総合基礎 HR として自分が興味関心のある分野のプリント教材を学習している。

(別紙①教材一覧参照)

総合基礎 CATの学習教材		
◆英検CATはパソコンを用いた学習教材です。テスト形式で学習を進めます。		
◆英語以外の学習も積極的に学んでいます。		
		タイトル
国語的学習	シリーズ1	漢字を楽しもう1
	シリーズ2	漢字を楽しもう2ー漢字を探そうー
	シリーズ3	漢字を楽しもう3ー漢字を紹介しようー
	シリーズ4	美文字を書いてみよう
	シリーズ5	漢字パズル
	シリーズ6	象形文字と会意文字
	シリーズ7	やまとことばクイズ
	シリーズ8	敬語表現 その巻、貳
	シリーズ9	SPH問題に挑戦
数学的学習	シリーズ1	数を使った頭の体操「テンパズル①」
	シリーズ2	数を使った頭の体操「テンパズル②」
地歴公民的学習	シリーズ1	My「NAVER」My「BLOG」導入編・作業編(1～4)
	シリーズ2	新聞記事を読み解こう「バリ同時テロ」
	シリーズ3	新聞記事を読み解こう「農業人口減」
	シリーズ4	英語で歴史を知る1「国立西洋美術館本館」
	シリーズ5	英語で歴史を知る2「琉球王国」
	シリーズ6	英語で歴史を知る3「古代エジプト」
	シリーズ7	英語で歴史を知る4「三国時代」
理学的学習	シリーズ1	身体の不思議について「人間はどこまで潜れるか？」
	シリーズ2	身体の不思議について「鳥肌ブツブツの正体は何か？」
保健体育	シリーズ1	筋肉とトレーニング
	シリーズ2	体重と有酸素運動
	シリーズ3	東京オリンピックとオリンピックの歴史
	シリーズ4	食事と栄養
教科横断型学習 I	シリーズ1	成城に「ゴジラ大壁画」
	シリーズ2	ゴジラ60年とその歴史
	シリーズ3	ゴジラから学ぶ放射線
	シリーズ4	「ゴジラ」と「Godzilla」からわかる映画の邦題と洋題
英語学習	CAT	旺文社 e ラーニング英検教材
Eライブラリー	英語	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	国語	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	数学	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	理科	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
社会	小学校1年から中学3年までの振り返り教材	

- (2) 教材について

総合基礎 CAT および総合基礎 HR 教材は以下のように分類される。

① CAT

(株) チェルの学校向けクラウド型 e ラーニング教材を用いて、英検合格に向けての学習を行う。

② e ライブラリー

(株) ラインズの教材 小学校から中学校までの振り返り学習をコンピュータ上で学習する。

③ プリント教材-1 教科的学習

歴史を英文から学ぶ「歴史的学习」、数を使った頭の体操「数学パズル」など

④ プリント教材-2 教科横断型 (教科から学ぶのではなく、教材から教科内容を学ぶ教材)

「ゴジラ」について学びながら、教科の内容を学習する。

例) ゴジラの体長から単位換算について学ぶなど

(3) 指導

CAT クラスでは毎時担任とアシスタント教員が 1 名ついて実施する。担任はアシスタント教員が指導に当たっている間に生徒と個別面談を行う。年 4 回この時間を用いて生徒との面談を実施した。総合基礎 HR では個別に学習課題に取り組んでいる時間を生徒との面談時間にあて、生徒の学習状況の把握に努めた。

(4) 成果

生徒は個別に学習する課題が異なる個別対応となるため、何を学習するかがはっきりする。生徒自身が興味関心のある分野の課題を選択し主体的に学習に取り組んでいる。基礎学力の定着、確認を希望する生徒は小学校、中学校の学習内容から自ら学習内容を選択し、学習することができるため、中には分数や一次方程式などの分野から学習を行い基礎力の充実に力を入れる生徒もいる。上級をめざす生徒は教科横断的な内容の学習プリントや英検上位級の合格を目指し主体的に学習を進めている。

総合基礎 A は①生徒②教科担当③担任の三者が、互いに相談しあい、連携しながら生徒の学習を進めることが最大の特徴である。担任は生徒と学習状況について助言や確認を行う。教科担当は学習状況を本校のポートフォリオである「マイデータファイル」に記録する。担任は教科担当に学習状況を確認するなど、従来の指導でできなかった三者のつながりができたことは成果といえる。



### Ⅲ 総合基礎（数学）について

#### (1) 指導内容

週 2 時間 個別学習プリントを実施（項目は以下の通り）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
【足し算】	【引き算】	【かけ算】	【わり算】	【四則演算】	【小数の加法・減法】	【小数の乗法・除法】	【分数の加法・減法】	【分数の乗法・除法】	【正負の数の加法・減法】	【正負の数の乗法・除法】	【累乗の計算】	【いろいろな計算】	【単項式の乗法・除法】	【単項式の混合計算】	【同類項の整理】	【分配法則】	【乗法公式】	【素因数分解】	【共通因数のくくり出し】	【因数分解】	【√を含む式の乗法・除法】	【分母の有理化】	【√を含む式の加法・減法】	【根号を含む式の計算】

#### (2) 指導

2 クラス約 60 名をチャレンジクラス、スタンダードクラス、ベーシッククラスの 3 クラスに分けてクラスを編成。チャレンジクラス・スタンダードクラスは各 1 名教員が指導するがベーシッククラスには毎時担任とアシスタント教員が 1 名ついて実施している。

#### (3) 成果

基礎学力試験や計散歩（本校独自のプレイスメントテスト。基礎的な内容を小テスト化したもの）の内容と連動したプリント教材を用いて学習した。生徒は自分自身が担任との面談を通じ選択した教材を学習することから意欲的に学習に取り組む生徒が多く見られた。またベーシッククラスは、より教員のサポートが必要とする生徒が多いため、教員 2 名体制で指導している。このため寄り添うように生徒の学習を進めている。個別に指導することにより、個々の生徒が何を苦手としているかが具体的にわかるようになったことは、一斉指導では得られなかった成果である。

### Ⅳ 総合基礎（英語）について

#### (1) 指導内容

週 1 時間 個別学習プリントを実施（項目は以下の通り）

動詞				5W1H			進行形		助動詞		動名詞 不定詞	
be 動詞／文の語順	be 動詞／一般動詞	be 動詞／一般動詞 / Yes, No	文の語順／動詞／疑問文・否定文	意味と種類	文の語順	疑問詞を使った作文	文と文法理解	文の形	動詞と形	助動詞の位置	意味と種類	不定詞・動名詞の使い方
												作文

(2) 指導

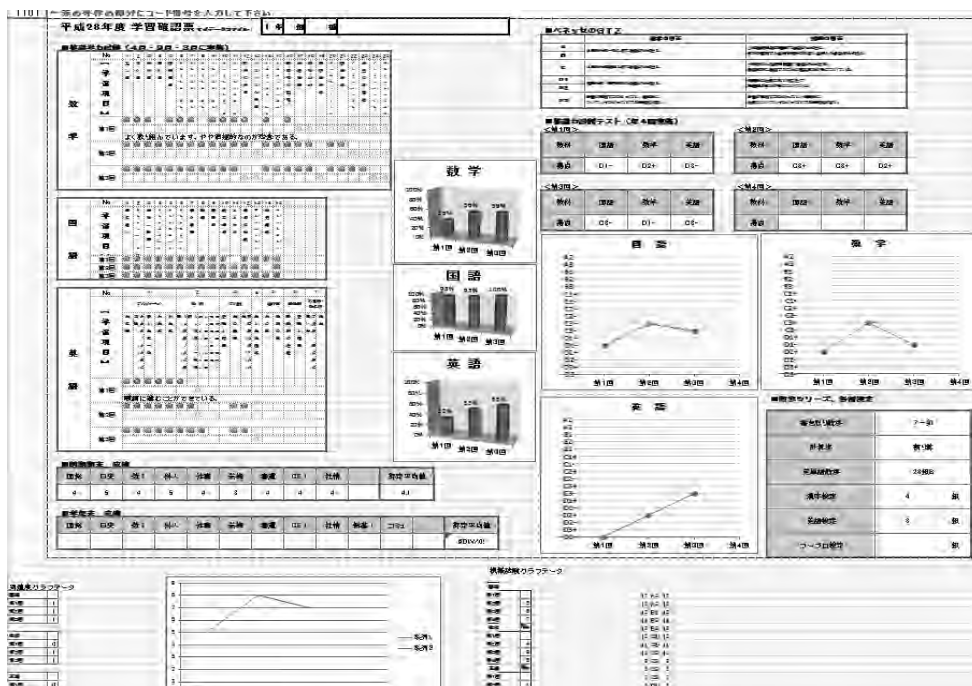
数学同様 2 クラス約 60 名をチャレンジクラス、スタンダードクラス、ベーシッククラスの 3 クラスに分けてクラスを編成。チャレンジクラス・スタンダードクラスは各 1 名教員が指導するがベーシッククラスには毎時担任とアシスタント教員が 1 名ついて実施している。

(3) 成果

基礎学力試験で理解が不足している文法項目について、担任との面談を通じ選択した教材を学習するため意欲的に学習に取り組む生徒が多く見られた。またベーシッククラスは数学同様教員 2 名体制で指導している。一問一問を丁寧にわかりやすく時間をかけて説明・練習すること、英文は必ず声に出して友達と読みあう音読学習を続けているが、ようやく町で目にする英語が読めるようになったと感想を寄せしてくれる生徒がでるなど、徐々にではあるが英語に対する関心を高めることに成功している。

V マイデータファイル

生徒の外部試験の結果、内部診断テスト、散歩シリーズ（本校独自のプレイスメントテスト）の学習成果、評定、評定平均値をまとめたものとして、「マイデータファイル」を作成し、担任の面接に役立てている。マイデータファイルには、生徒がどこまで学力をつけることができたか、各種学習の結果が一覧となって表示され、生徒の学力の伸長を複数のデータを同時に比較することができることや、数種類の資料を探し提示する手間と時間を節約できることなど、効率よく生徒指導できるメリットがある。（別紙②マイデータファイルの表示例参照）



## V 課題

総合基礎 A (5 単位) について概要を述べてきたが、取り組むべき課題について以下の項目を挙げたい。

### (1) 学習に関心が薄い生徒への対応

ベーシッククラスでは教員が 2 名つき、人数も 20 人以下で指導しているため、比較的学習

の成果が出やすく、ある程度理解ができた生徒は次のステージであるスタンダードクラスへ

移行させているが、流れに乗りきれない生徒がいるのも事実である。課題学習を通じて自主的に取り

組むものとそうでない生徒の差がはっきり出てきてしまう課題に直面している。

具体的には取り組まない生徒が授業中寝てしまう、おしゃべりしてしまうことがあり、それを注意

あるいは指導すると、課題に取り組んでいる生徒への指導時間が減ってしまうというもどかしさを

感じるがあったという報告が上がってきている。

### (2) プリント配布時の問題点

現在、数学では 25 単元につき各 3 枚で計 75 枚。英語では 8 分野 84 枚の課題を準備している。一人一人課題が異なるため、約 20 人弱の生徒一人一人を確認しながらプリントを配布すると、指導時間が減ってしまうという課題が出てきた。また配布している間は、アシスタント教員がいるベーシッククラスでは生徒指導を行うことができるが、他のクラスでは 1 名しか教員がいないため、その間生徒への指導が行えず、おしゃべりしたり、寝てしまう生徒が出てしまうことがある。

### (3) 三者の連携

生徒、教科担当そして担任が生徒の学習について相談・連携するシステムを構築したが、十分機能したとはいえず、改善し続けなければならない。具体的には担任と生徒の間では年 4 回面談を行うことができたが、教科と担任との連携を十分に機能させることができなかつた。今後は時期と時間を決めるなど定期的に行うための具体的な手段を講じる必要がある。

## 総合基礎 CATの学習教材

- ◆英検CATはパソコンを用いた学習教材です。テスト形式で学習を進めます。
- ◆英語以外の学習も積極的に学んでいます。

		タイトル
国語的学習	シリーズ1	漢字を楽しもう1
	シリーズ2	漢字を楽しもう2ー漢字を探そうー
	シリーズ3	漢字を楽しもう3ー漢字を紹介しようー
	シリーズ4	美文字を書いてみよう
	シリーズ5	漢字パズル
	シリーズ6	象形文字と会意文字
	シリーズ7	やまとことばクイズ
	シリーズ8	敬語表現 その巻、式
	シリーズ9	SPI問題に挑戦
数学的学習	シリーズ1	数を使った頭の体操「テンパズル①」
	シリーズ2	数を使った頭の体操「テンパズル②」
地歴公民的学習	シリーズ1	My「NAVER」My「BLOG」導入編・作業編(1～4)
	シリーズ2	新聞記事を読み解こう「パリ同時テロ」
	シリーズ3	新聞記事を読み解こう「農業人口減」
	シリーズ4	英語で歴史を知る1「国立西洋美術館本館」
	シリーズ5	英語で歴史を知る2「琉球王国」
	シリーズ6	英語で歴史を知る3「古代エジプト」
	シリーズ7	英語で歴史を知る4「三国時代」
理学的学習	シリーズ1	身体の不思議について「人間はどこまで潜れるか？」
	シリーズ2	身体の不思議について「鳥肌ブツブツの正体は何か？」
保健体育	シリーズ1	筋肉とトレーニング
	シリーズ2	体重と有酸素運動
	シリーズ3	東京オリンピックとオリンピックの歴史
	シリーズ4	食事と栄養
教科横断型学習 I	シリーズ1	成城に「ゴジラ大壁画」
	シリーズ2	ゴジラ60年とその歴史
	シリーズ3	ゴジラから学ぶ放射線
	シリーズ4	「ゴジラ」と「Godzilla」からわかる映画の邦題と洋題
英語学習	CAT	旺文社 eラーニング英検教材
Eライブラリー	英語	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	国語	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	数学	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	理科	小学校1年から中学3年までの振り返り教材
	社会	小学校1年から中学3年までの振り返り教材

会議名	第6回 多様な学習支援事業に関する検討会議
開催日時	平成28年9月1日(月) 14:00~16:30
場所	科学技術学園高等学校 C棟 会議室 B棟 307・308 教室
出席者	別紙資料
議題等	<p>1. パネルディスカッション 不登校について 静進情報高等専修学校 校長 柳澤 岳志 様</p> <p>2. 講演 デンソー技研センター 工師 安部 良夫 様 「デンソー学園の取り組み」</p> <p>3. 分科会</p>





会議名	第7回 多様な学習支援事業に関する検討会議
開催日時	平成28年12月5日(月) 14:00~16:50
場所	科学技術学園高等学校 C棟 会議室
出席者	別紙資料
議題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2分科会・第3分科会報告            特別に支援を要する生徒への学習教材の開発            通信制を特別に必要とする生徒について            通信制 津島主任</li> <li>2. 講演 アイム湘南美容教育専門学校 校長 梅原 昇子 様            「アイム湘南美容教育専門学校の取り組み」</li> <li>3. 指導助言</li> </ol>



## 特別に支援を要する生徒への 学習教材の開発 (第2分科会)

多様な学習を支援する高等学校の推進事業

## 「基礎学力クラス」設置の背景

- ・中学校までで養成されるはずの学習成果が“虫食い”状態の生徒（要因は様々）
- 高等学校の学習を積み上げられない



「学び直し」の場を提供

## クラス開始の動機

本校通信制課程において、学習が遅滞している生徒・登校頻度の低い生徒が散見

→ 原因を把握すべく面談を実施し、各々の実情にあわせた学習活動の提示

## 基礎学力クラスの現状

No.	氏名	年次	国語	算数	英語	他科目
1	N君	2	漢字の書き取り	計算ドリル STEP4	基礎英語	地理A (履修)
2	O君	2		STEP1		
3	H君	2		STEP2		
4	Tさん	1		STEP3		
5	Oさん	3		STEP3		

火曜日	地理A	単位取得に向けて、レポートの作成に取り組んでいる
木曜日	計算	段階別ドリルに取り組んでいる
	英語	基礎部分 (be動詞等) から学習を始めている
土曜日	漢字	書く方に注力し、毎回確認小テストを実施している

→ 学習の進度・内容は生徒に合わせる  
(寺子屋方式 → 個別指導)

### ◆ 使用中の教材

**国語**：「書き取り散歩 8~7級」  
→ 漢検を意識した読み書きテキスト

**算数**：「基礎計算ドリル」  
→ STEP1：四則演算  
STEP2：小数の計算  
STEP3：分数の計算  
STEP4：図形・立体等の計算

**英語**：「総合基礎（英語）」  
→ 英検5級相当から用意されたテキスト

## 基礎学力クラス 実践例①

### 事例：N君の場合

…入学後、単位の修得ができず休学  
「勉強についていけない」ことで学校から足が遠のいていた

**前期**：4月から学習を開始 (計算のみ)

→ 登校・学習の習慣が定着してきている

**後期**：国語・地理Aの学習も追加

→ 家庭での生活面でも改善がみられる  
学習に対して積極的な姿勢・言動が見られる

## 基礎学力クラス 実践例②

### 事例：H君の場合

…スクーリングへの出席はあるが、レポートの作成がままならず、単位取得につながらない

後期：10月から個別学習を開始

→ レポート作成をサポートしつつ、苦手な数学（算数）はSETP2からスタート

## 基礎学力クラス 実践例③

### 事例：Tさんの場合

…高校入学に際して英語の学習に対する不安があり、基礎からの学び直しを希望

後期：11月から個別学習を開始

→ 基礎試験の後、本校の教材を使用して動詞の単元から学習をはじめる



## 通信制を特別に必要とする 生徒について (第3分科会)

多様な学習を支援する高等学校の推進事業

## 社会における現状

自らの意志で通信制高校へ入学している生徒

クラシックバレエ	テニス
サッカー	ゴルフ 芸能関係 等

→目的に対する練習時間を作るため

「通常の高校では達成できない目的を持った生徒への学習支援についての調査・研究」を行う

## 本校生徒の調査

個人生として学習している生徒

クラシックバレエ、テニス、芸能、 専門学校、美容教育、 ペット・トリマー
--

今回はモデルケースとして、クラシックバレエの活動をする生徒への支援について考えていくこととした。

## 学習支援の検討

普通科目に対する学習姿勢の改善

- ・自分の専門とする分野のエキスパートになるためにはその分野以外の科目は単に単位を修得すればいいという考え（高卒の資格取得のため）



普通科目の教材開発 → 幅広い知識を身に付ける



エキスパートになるための教養を養う

普通科目の教材の研究・開発の推進

## 学習支援の検討

バレエ研修所の生徒について検討してきた内容

- ・どのような学習支援ができるのか

これから開講できると考えられる科目

教養を身に付けさせる…健康管理

☆栄養学

栄養学の学習教材の提供

## 栄養学実践報告

日時：平成28年5月18日（水）10：00～16：00

場所：講義 309教室 実習：家庭科室

講義内容：栄養素の種類とはたらき  
食品群別摂取量のめやす

食品群別摂取量のめやすで自分の一日に  
摂取しなければならない食品の量を確認



実習で確認

## 栄養学実践報告

実習内容：一日の献立の立て方

実習内容：一日の献立の立て方  
講義で学習したことをもとに  
実際に調理を行う

実習後に朝食、昼食、夕食に分けてセッティングし、目でみて確認できる内容とした



## 栄養学実践報告



朝食：白飯 豚汁  
納豆（生卵入り）  
キャベツの甘酢漬け  
牛乳



レッスンの会間でも食べやすい食事



朝食：白飯 カレースープ  
鮭ときのこのホイル焼き  
小松菜のおひたし

## 現在、実践中のもの

美容学校における国家試験対策

美容師国家試験科目 → 衛生管理

科技高提供教材 →

国家試験合格と学び直しを両立



会議名	第8回 多様な学習支援事業に関する検討会議 ～生徒指導研究協議会～
開催日時	平成29年1月26日(木) 10:30～12:40
場所	静進情報高等専修学校
出席者	別紙資料
議題等	<p>1. 参加校紹介</p> <p>2. 講演 都立小児医療センター 副院長 田中 哲 先生 「起立性調節障害について」 ～ 子どもが社会へ出ていくときのつまずき ～</p> <p>3. 事例発表 静進情報高等専修学校 校長 柳澤 岳志 様</p> <p>4. 講評 静岡英和学院大学 教授 林 智幸 先生</p>



企業内訓練校

## 『デンソー工業学園』の取り組み

- 1、自己紹介
- ◆名 前 : 安部 良夫 (62才) (株)デンソー技研センター勤務
  - ◆出 身 : 愛知県知立市在住 (島根県奥出雲町出身)
  - ◆“会社に感謝” 素晴らしい環境で育てて頂きました!

2、生徒制作 『デンソー工業学園紹介ビデオ』

3、株式会社デンソーについて

3-1 デンソーの会社概要 (16.3 末現在)

3-2 製品と事業領域 ①環境 ②快適 ③利便 ④安全 ⑤産業機器

3-3 デンソー基本理念 と デンソースピリット

※海外拠点を含め “人材育成の柱” となっています。

3-4 デンソーのモノづくり ①品質 ②納期 ③コスト ④安全 ⑤人

3-5 デンソーにおける人材育成



4. デンソー工業学園について

4-1 2001年 (株)デンソー技研センター誕生

4-2 デンソー技研センターの概要

- (1) デンソー工業学園 (3 課程)
- (2) 技能五輪 (11 職種)
- (3) 技能研修 (全社募集)
- (4) 技術研修 (全社募集)

### 4-3. デンソー工業学園の沿革

- ・1954 「技能者養成所」開設
- ・1959 職業訓練法に基づく「事業内職業訓練」認可
- ・1971 科学校術学園高等学校(通信制)との連携教育開始(工高課程)
- ・1973 「日本電装学園」と改称
- ・1981 本社(刈谷)から安城市高瀬町へ移転
- ・1987 「日本電装工業技術短期大学校」開校
- ・1996 「デンソー工業技術短期大学校」と改称
- ・2000 男女共学開始(工高課程)
- ・ # 留学課程の開講
- ・2005 工高課程から短大課程への5ヵ年一貫教育開始
- ・2011 「デンソー工業学園」と改称

### 4-4 企業内学校 デンソー工業学園 (体系図)

### 4-5 工業高校課程 (科技高生) の取り組み

- (1) 生徒数 : 102名 [ 1年36(10)、2年32(5)、3年33(4) ]
- (2) 出身 : ①県内90% ②県外10%(北海道~長崎)
- (3) 寮生 : ①男子25名(30%) ②女子5名(25%)
- (4) 募集 : 主要5教科 5段階評定 各科目3.0以上
- (5) 手当て : 訓練生手当て有り(社員として採用)

### 4-6 1日のスケジュール

	学科週	実習週
8:35	朝礼(体操、現行訓練)	朝礼(体操、現行訓練)
8:55	ホームルーム活動	ホームルーム活動
9:15	1時限目 (45分)	午前実習
10:05	2時限目	
10:55	3時限目	
11:40	昼休憩 (60分)	昼休憩 (60分)
12:40	4時限目	午後実習
13:30	5時限目	
14:20	6時限目	
15:10	7時限目	8時限目
16:05	8時限目	
16:55	9時限目 } クラブ	9時限目 } クラブ
17:40	自主練習	自主練習
18:40		

会社カレンダーで活動(訓練)



4-7 指導上の留意点 : あるべき姿を描いて

4-8. 訓練生の活動事例のご紹介

“上手くいった時より、失敗した時の方が良く覚えている”  
但し、けがは絶対ダメ！！

- 構内活動事例① 実習で一杯失敗
- 構内活動事例② 東北に不良自転車を修理・搬送
- 構内活動事例③ F1カー製造ラインづくり（設備開発）
- 構内活動事例④ 歩行帯の設置提案（生徒会活動）
- 校外活動事例① 生徒自主企画 東北復興ボランティア
- 校外活動事例② 島根県高等技術校で技能実演
- 校外活動事例③ けん玉ロボット開発への挑戦
- 校外活動事例④ 文化、スポーツ、イベントにも挑戦

4-9 学園卒業後の進路



4-10 育成の全体像 : 時代の流れを先取り

5. 技能五輪訓練への取り組み 2016年10月 山形県で開催の技能五輪全国大会に参加

- ◆3年 松屋 空 (精密機器)
- 中西 竜一 (機械組立)
- 小林 稜 (普通旋盤) の3人も挑戦

5-1 技能五輪訓練への挑戦 『精度・速度・美観の追求』プロセスが人を活かす

技能五輪 11職種	機械系	仕上げ系	電気・情報系
	①旋盤	④抜き型	⑦電子機器組立て
	②フライス盤	⑤機械組立て	⑧工場電気設備
	③機械製図	⑥精密機器組立て	
	⑨メカトロニクス	⑩移動式ロボット	⑪製造チームチャレンジ

6. 最後に ① “私の心がけ”

- 1、指導者は受講者を1回余分に信じる。
- 2、直ぐに教えることが良いとは言えない。  
相手レベルを考え、我慢も必要。(コーチング)
- 3、指導は優しく厳しく。〇〇になって欲しいと言う期待を持って。
- 4、5年先・10年先を考えた育成を展開。  
今だけを見ない。
- 5、他人と比較せず、個人の成長でアドバイス。

② 私たちの課題

<教育3要素の充実>

- 1、指導者： 熱い思いと個別指導
- 2、カリキュラム： 職場ニーズに沿って
- 3、教材： 気づきに繋がる教材  
1台/人がペース

“指導者が教育の70%以上を決める”

おわりに グローバルに活躍する技能者を目指して  
『モノづくりは人づくり』

科技高先生方のご指導を今後共よろしくお願い致します。

貴重な機会 “有難うございました”



# アイム湘南美容教育専門学校 美容師養成施設とは

## アイム湘南美容教育専門学校 概要

学校法人梅原学園アイム湘南美容教育専門学校は、平成11年4月に神奈川県秦野市にアイム湘南美容専門学校として開校した、美容師養成施設です。

- 神奈川県内25年ぶりの新設校
- 厚生労働大臣指定の美容師養成施設
- 日本で初めて技能連携制度を導入した美容学校



## 美容とは



### 美容師法第2条

パーマントウェーブ、結髪、化粧等の方法により、容姿を美しくすること

## 美容とは



ネイル



エステティック



まつ毛エクステンション

## 無免許者によるまつ毛エクステンションの健康被害



罰則  
30万円以下の罰金刑  
【美容師法第18条】

## 美容師国家試験について

### 【実技試験】

■ 第1課題  
カッチング



■ 第2課題  
ワインディング



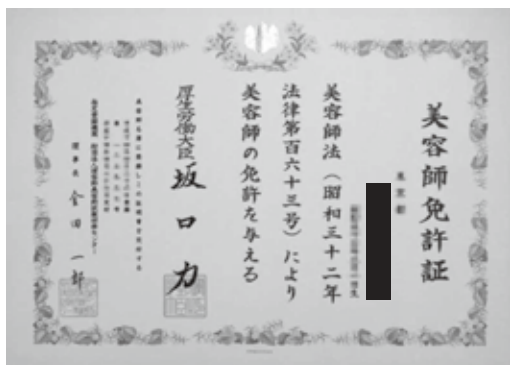
オールウェーブセッティング



### 【学科試験】

- 関係法規・制度
- 衛生管理(公衆・環境衛生、感染症、衛生管理技術)
- 美容保健(生理解剖、皮膚科学)
- 美容物理・化学
- 美容技術理論

## 美容師免許



## 美容関連・認定資格



まつ毛エクステンション認定証  
【日本美容教育センター】



ネイリスト技能検定  
【日本ネイリスト試験センター】



ジェルネイル技能検定  
【日本ネイリスト協会】

## 誇大広告の例【1/2】

## 誇大広告の例【2/2】

## 美容師法の改正

- 美容師養成施設の入所資格  
中学校卒業 → 高等学校卒業
- 美容師養成施設の修業年限  
1年制 → 2年制
- 実地習練（インターン）制度の廃止
- 美容師試験・免許に関する行政事務  
都道府県知事 → 厚生大臣（現厚生労働大臣）

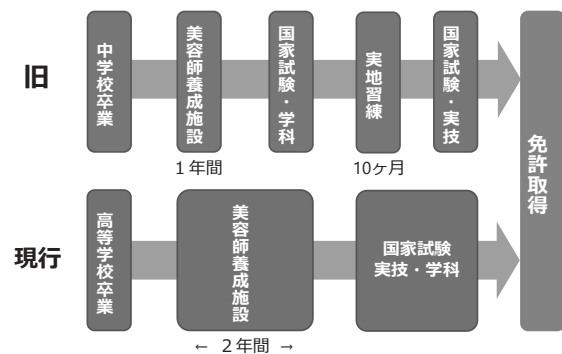


## 法改正の背景

- 血液を介して感染するHIV、ウイルス性肝炎などの感染症への対応の強化
- 化粧品、パーマ液等の多様化によるアレルギーへの対応の必要性

美容師に求められる知識の多様化により、  
技術面でも衛生面でも  
より高い水準が求められるようになったため。

## 美容師になるまで | 旧制度・現行制度



## 中学校卒業者に対する暫定措置

- 美容師養成施設の入所資格が高等学校卒業者に改正された。
- ただし、暫定措置として、中学校卒業者も一定要件のもと、入学が許可されるという道が残された。

- ① 入学試験を実施すること
- ② 別に定められた講習課程を修了すること



美容師養成施設の修了を認める

## 技能連携制度教育の導入

## 連携措置に係る科目と単位数

科目名	高等学校の対応科目と単位数
関係法規・制度	
衛生管理	公衆衛生【2単位】
美容保健	
美容実習	美容実習【17単位】
メイクアップ	
デザイン色彩学	
デザイン構成学	ファッションデザイン【6単位】
美容モード理論	
ネイル	
美容文化論	
美容技術理論	服飾文化【4単位】
サロンワーク（和装）	
情報技術	社会と情報【2単位】

## 新入学生の様子

- 教育の成果が上がらず、国家試験対策も苦戦
  - ① 国家試験を受験できるだけの学力に到達できていない
  - ② 美容サロンに出ても続けていくだけの精神力が成熟されていない
- 3年制の導入 ⇒ 1年の差は大きい  
基礎学力・人間性の教育を充実



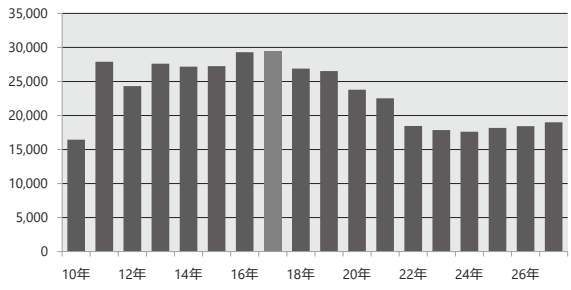
## 美容師ブームのきっかけ | ビューティフルライフ

- 2000年1月からTBS系列で放送されたドラマ。
- 腕はあるが人気のない美容師の男性と、難病に侵された図書館司書の女性を描いたラブストーリー。



### 美容師免許新規登録者数の推移（平成10年から27年）

ブームとなった平成17年からは減少傾向にあるが、現在も毎年2万人弱が美容師免許を取得

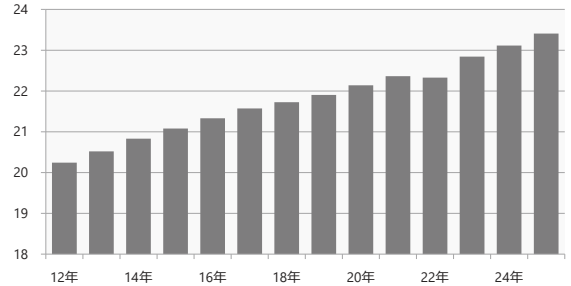


出典：公益財団法人美容師試験研修センター

### 美容所店舗数の推移（平成12～25年）

美容所数は年々増加しており、過当競争状態となっている。

(単位：万軒)

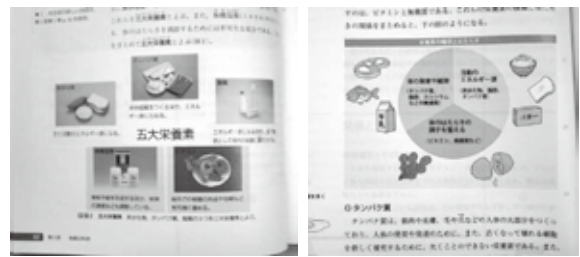


出典：衛生行政報告例及び「人口推計」総務省統計局

### 高等学校教科書の重要性



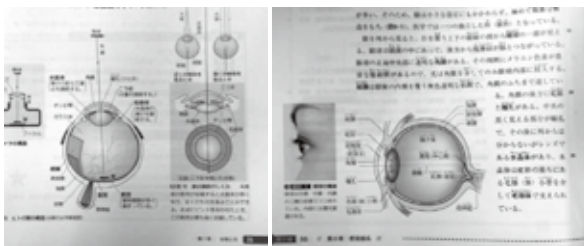
### 教科書の比較



家庭基礎【開隆堂】

美容師養成施設教科書  
＜衛生管理・公衆衛生＞

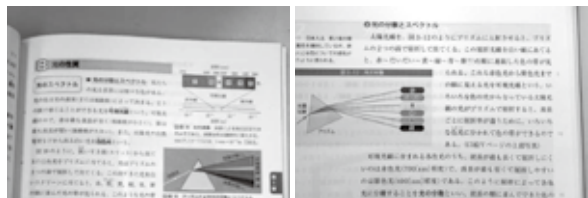
### 教科書の比較



科学と人間生活【啓林館】

美容師養成施設教科書  
＜美容保健・生理解剖学＞

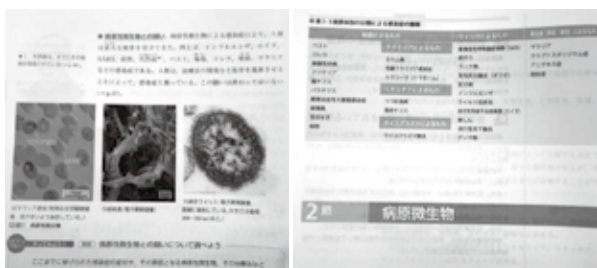
### 教科書の比較



科学と人間生活【啓林館】

美容師養成施設教科書  
＜美容物理・化学＞

## 教科書の比較



科学と人間生活【啓林館】

美容師養成施設教科  
＜衛生管理・感染症＞

## 教科書の比較



ベーシック数学【科学技術学園高等学校】

美容師養成施設教科  
＜衛生管理・消毒法＞

## 科技高の熱意、アイムの熱意

## 3年目、それは嬉しい悲鳴でした

入学定員40名、受験希望者50名

科技高の情熱がアイムを救う

## 美容師になりたい中学生

- 純粋に美容師を志望し、資格取得を目的にしている。
- 中学校時代は部活動などに邁進していて、成績があまり良くない。
- 中学校時代は、不登校のためほとんど登校していない。  
又は保健室登校をしていた。
- 中学校時代は、遊ぶことに夢中であつたため、学校から何度も叱られている。

## ミュージカルを通じた教育



## エンタテインメント教育

「総合的学習」「芸術」「デザイン」「美容実習」  
という授業に繋がる



アイムのミュージカルには、  
取り組むためのポリシーがある

## ONE FOR ALL, ALL FOR ONE



マンマ・アイムでなければならない理由

## マンマ・アイムとは

ミュージカル「マンマ・ミーア」  
ミュージカルを構成する全曲が、  
アバというロックバンドの曲で構成されている



技能連携がなければ、今のアイムはない

## 科技高の必要性

科技高が通信制教育を導入され、技能連携教育をされているからこそ、  
学生たちは**希望に満ちた未来**を見据えることができる





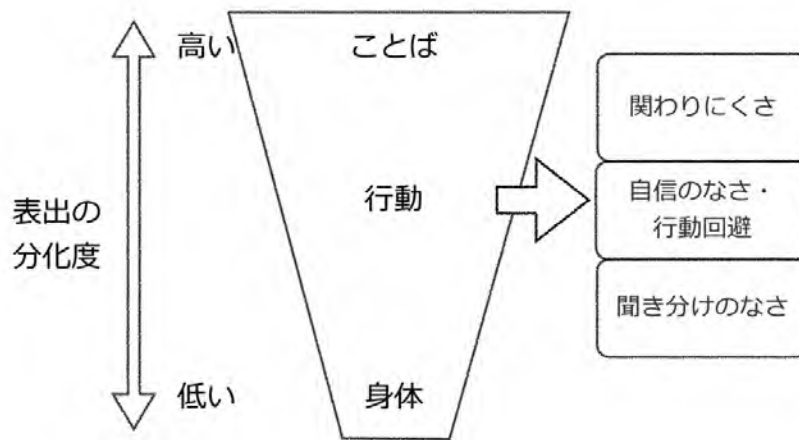


# 『子どもたちの心とからだ』

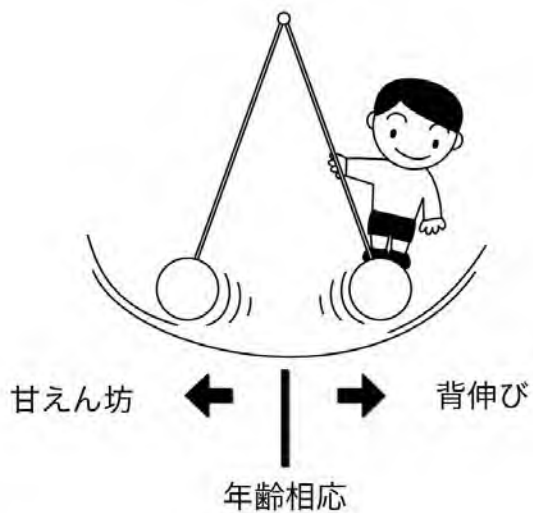
都立小児総合医療センター 田中 哲

- はじめに  
多様化する子どもたちの「心とからだ」の問題
- 心とからだの症状の関係について

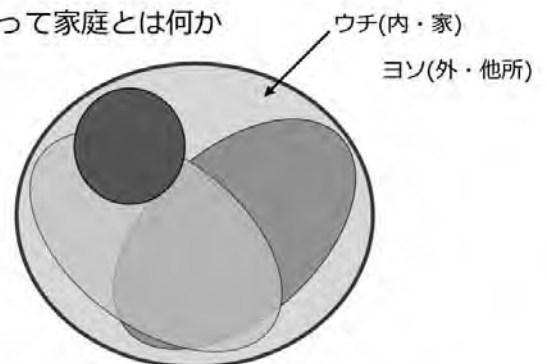
## 子どもたちの心とからだ



- 子どもたちの心の“ゆらぎ”について

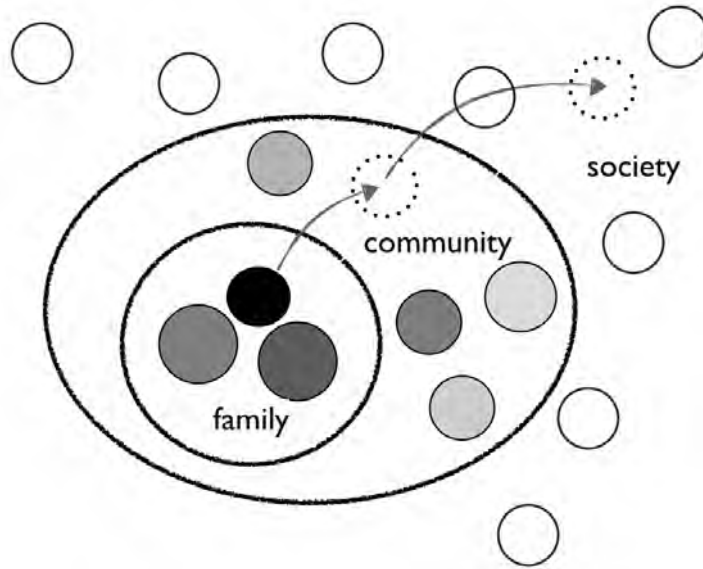


・ 子どもにとって家庭とは何か



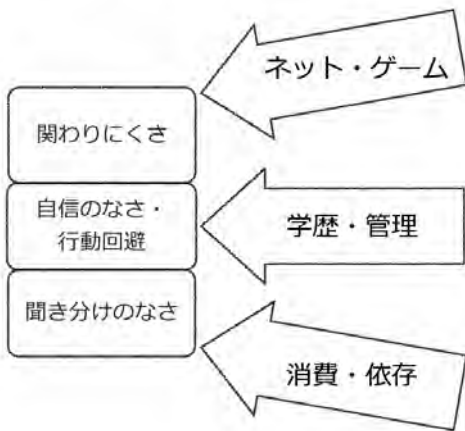
子どもの『在り方』(being)の保障としてのワガママ  
そこに必ず『いてくれる』親がいる場である家庭  
安全に家庭の外(ヨソ)を共体験できる家族

○ 子どもたちの自立とコミュニティ



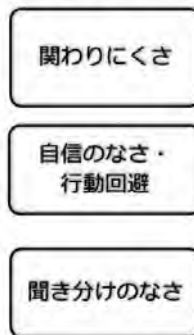
○ 子どもたちの行動の不安定化

子どもの問題行動と社会



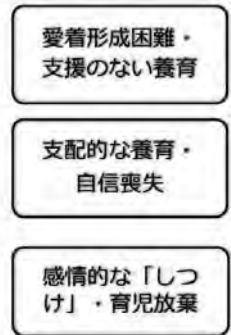
養育困難の基本構造

子どもの側の要因



X

養育者の側の要因



研究収録Ⅱ 平成28年度

文部科学省委託事業

---

平成29年3月3日

学校法人 科学技術学園

理事長 杉下俊雄

東京都世田谷区成城 1-11-1

印刷所 株式会社 東京アイデアフォース

東京都港区新橋 5-26-8

---

